

No. 20

ベトナム
村落開発分野青年海外協力隊巡回指導調査
報告書

JICA LIBRARY



1175530{3}

平成 15 年 12 月

独立行政法人 国際協力機構
青年海外協力隊事務局

青海二

J R

03-06

= 目次 =

序文

隊員配置図

地図（調査実施地）

写真

目次

第一章 調査概要

1-1 調査の目的.....	1
1-2 調査団の構成.....	1
1-3 調査日程.....	2
1-4 主要面談者.....	3

第二章 調査結果

2-1 共通調査事項.....	5
2-2 バクザン省.....	5
2-3 フェ市	
(1) 樫田 真隊員（15年度1次隊・村落開発普及員）.....	5
(2) 古関 陽子隊員（15年度1次隊・村落開発普及員）.....	5
(3) 藤田 めぐみ隊員（15年度1次隊・村落開発普及員）.....	5
2-4 タインホア省	
(1) 竹林 正人隊員（14年度3次隊・村落開発普及員）.....	5
(2) 佐竹 香里隊員（14年度3次隊・村落開発普及員）.....	5
(3) 大崎 伸也隊員（15年度1次隊・村落開発普及員）.....	6
2-5 ホアビン省	
(1) 土橋 香子（14年度2次隊・村落開発普及員）.....	6
(2) 仲本 優子（14年度3次隊・保健師）.....	6

第三章 ワークショップ及びセミナー結果

3-1 村落開発分野ワークショップ.....	7
3-2 村落開発普及員の活動にかかるセミナー.....	7

第四章 考察

4-1 団長総括.....	8
4-2 村落開発普及員の今後の展開に関する提言.....	10

別添資料

序 文

調査対象国であるベトナムに対しては、1995年、ハノイ市における日本語教師隊員に限定するという条件のもとで派遣を開始してから、これまでに101名の隊員を派遣し(2003年9月30日現在)、現在は、職種の拡大や地方への展開が着実に進んでいる。

昨今、ベトナム事務所では、特に村落開発普及員及び現職教員特別参加制度対象職種並びに看護師・助産師隊員の要請開拓を積極的に実施している。

このような背景のもと、今後本格的に活動を行うことになる派遣中隊員の活動現場を訪問し、活動の方向性について各隊員に助言を行うこと、また、村落開発分野分科会やセミナーの開催、事務所との協議を通じて、さらなる村落開発普及員の役割についての理解促進、ベトナムでの同分野における今後の隊員派遣計画策定に資することを目的として、2003年11月6日から11月18日までの13日間にわたり、ベトナムへ調査団を派遣した。

本報告書は、同調査団による調査結果を取りまとめたものであり、今後の同職種の活動の参考及び派遣方針を検討するにあたり、関係者に同種のグループ派遣活動に広く活用されることを願うものである。

ここに、今回の調査に協力いただいた関係者の方々に対し、深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成15年12月

独立行政法人 国際協力機構
青年海外協力隊事務局
事務局長 金子 洋三



1175530[3]

ベトナム社会主義共和国ボランティア配置図

平成15年11月7日
JICAベトナム事務所

シニア海外ボランティア(SV)

派遣開始:	平成13年1名(男性)
派遣中SV数:	1名(男性1名)
累積SV数:	5名(男性5名)

SV

HANOI (ハノイ市)			1名
SV氏名	職種	派遣期間満了日	
1 渡邊 武	築造	~2004.04.02	

JOCV

HUE (フエ市)				8名
1	H14/1	小林 童子	観光業	~2004.07.15
2	H14/3	椎名 聡	看護師	~2005.04.08
3	H15/1	櫻田 真	村務開発普及員	~2005.07.14
4	H15/1	吉岡 陽子	村務開発普及員	~2005.07.14
5	H15/1	藤田 めぐみ	村務開発普及員	~2005.07.14
6	H15/1	高橋 道隆	漁業	~2005.07.14
7	H15/1	平岡 明子	助産師	~2005.07.14
8	H15/1	須江 紓美	家政	~2005.07.14

JOCV

NINH THUAN (ニントゥアン省)				2名
1	H13/2	小山 佳孝	バレーボール	~2003.12.05
2	H15/1	古橋 英子	バレーボール	~2005.07.14

JOCV

BINH THUAN (ビントゥアン省)				2名
1	H13/3	渡海 兼一	バドミントン	~2004.04.03
2	H15/1	渡邊 大介	バスケットボール	~2005.07.14

JOCV

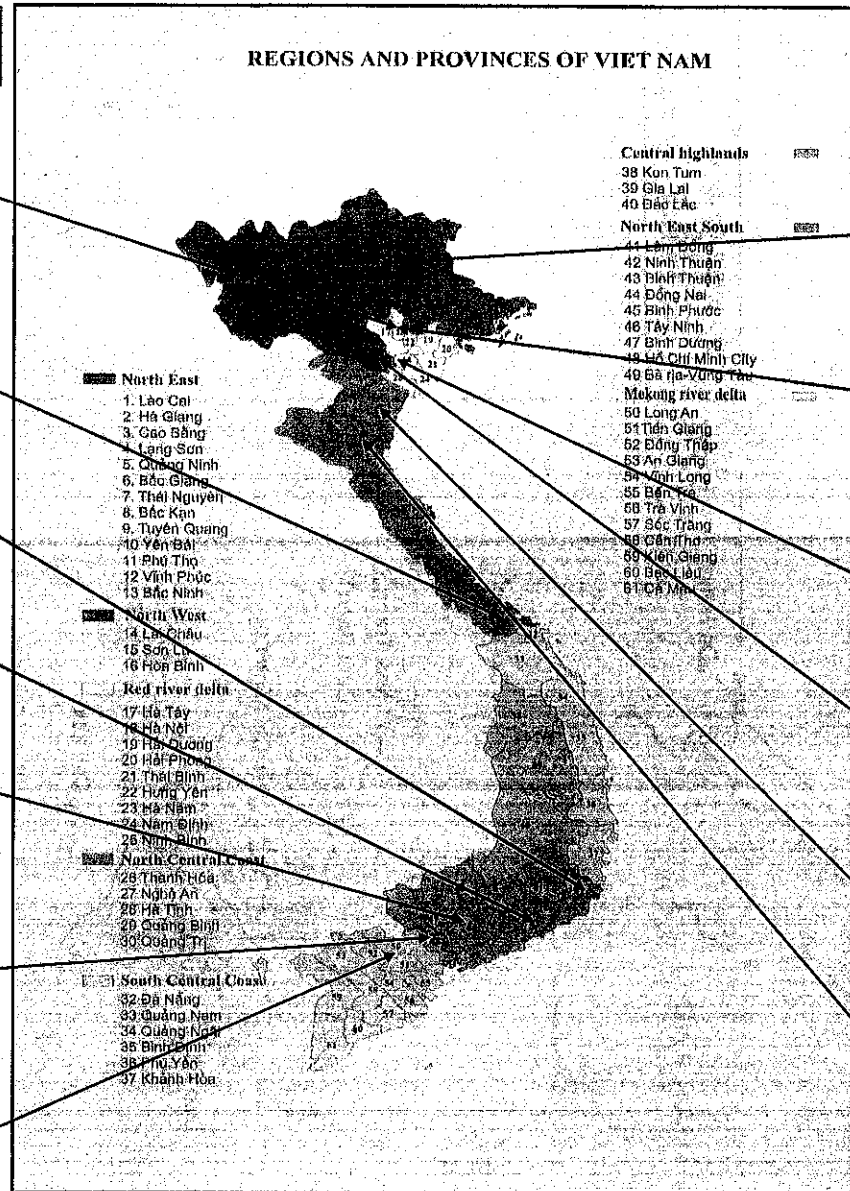
DONG NAI (ドンナイ省)				2名
1	H15/1	内藤 誠二	理学療法士	~2005.07.14
2	H15/1	牧野 智恵子	養護	~2005.03.27

JOCV

HGHC (ホーチミン市)				6名
1	H13/3	櫻庭 隆	テニス	~2004.04.03
2	H14/1	大島 一仁	テニス	~2004.07.18
3	H14/1	三井寺 学	卓球	~2004.07.18
4	H14/2	田島 久	ブクダ・ワザ	~2004.08.19
5	H14/2	秋山 しほき	建築	~2004.12.03
6	H14/2	西村 真弓	日本語教師	~2004.12.03

JOCV

LONG AN (ロンアン省)				1名
1	H14/2	西山 昌宏	植林	~2004.12.03



青年海外協力隊(JOCV)

1 派遣取扱:	平成6年(1994年)8月29日
2 派遣開始:	平成7年短期緊急派遣 3名(男性1名、女性2名)
3 派遣開始隊次:	平成7年度1次隊 3名(女性3名)
4 派遣中隊員数:	44名(男性19名、女性25名)
5 累積隊員数:	101名(男性37名、女性64名)

(短期緊急派遣隊員3名及びシニア隊員3名含む)

JOCV

TUYEN QUANG (トゥインクアン省)				2名
隊次	隊員氏名	職種	派遣期間満了日	
1	H13/3	後藤 飛鳥	診療放射線技師	~2004.04.03
2	H14/1	藤岡 佳子	栄養士	~2004.07.16

JOCV

HANOI (ハノイ市)				7名
1	H13/1	藤巻 政和	日本語教師	~2004.07.10
2	H13/1	松田 知子	日本語教師	~2003.12.17
3	H13/2	鈴木 綾乃	日本語教師	~2004.03.01
4	H13/2	西出 幸代	日本語教師	~2003.12.05
5	H14/1	徳増 紀子	日本語教師	~2004.07.16
6	H14/1	藤田 奈津子	日本語教師	~2004.07.16
7	H14/2	木村 範子	日本語教師	~2004.12.03

JOCV

HA NAM (ハーナム省)				2名
1	H15/1	黒澤 宏至	小学校教諭	~2005.03.27
2	H15/1	清水 大祐	小学校教諭	~2005.03.27

JOCV

HOA BINH (ホアビン省)				2名
1	H14/2	土橋 香子	村務開発普及員	~2004.12.03
2	H14/3	仲本 優子	保健師	~2005.04.08

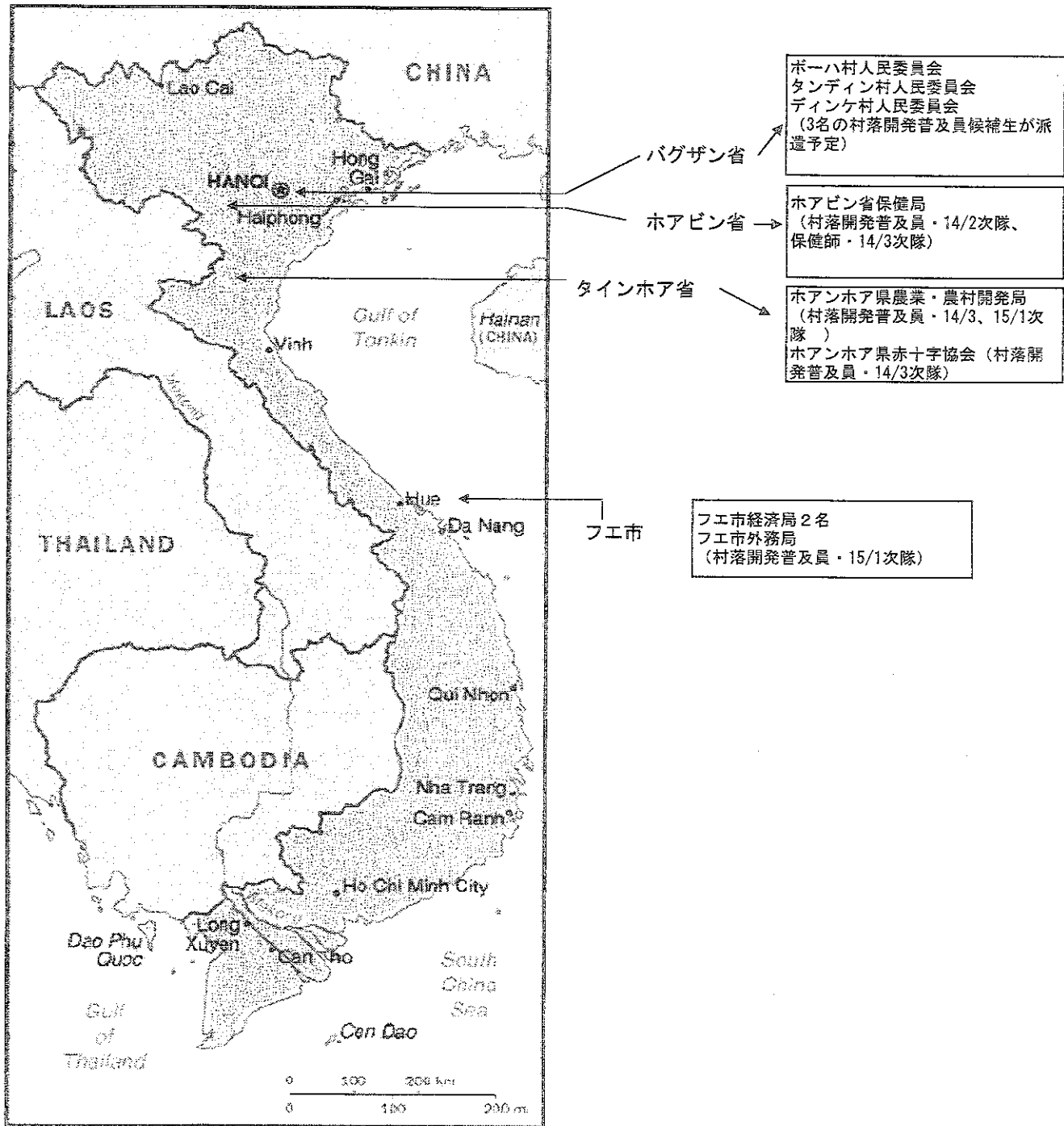
JOCV

THANH HOA (タインホア省)				5名
1	H14/3	竹林 正人	村務開発普及員	~2005.04.08
2	H14/3	佐竹 香里	村務開発普及員	~2005.04.08
3	H15/1	大崎 伸也	村務開発普及員	~2005.07.14
4	H15/1	桑崎 順子	幼稚園教諭	~2005.07.14
5	H15/1	河津 朋子	幼稚園教諭	~2005.07.14

JOCV

NGHE AN (ゲンアン省)				5名
1	H14/2	立川 葵月	助産師	~2004.12.03
2	H14/2	村田 友紀子	助産師	~2004.12.03
3	H14/2	谷中 隆	コンピュータ技術	~2004.12.03
4	H14/3	澤本原ゆかり	助産師	~2005.04.08
5	H14/3	豊島 さやか	助産師	~2005.04.08

地図（現地調査実施地）





バグザン省人民委員会
にて



バグザン省の
きのこと栽培農家



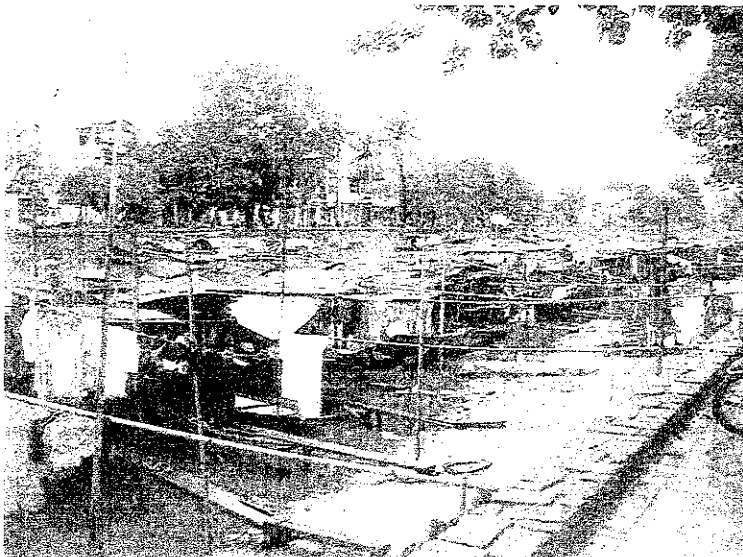
ベトナム事務所併設の
Expert-JOCV Room



フエ市の幼稚園で活動
する
藤田隊員（右）と
須江隊員（左）



フエ市経済局オフィス
にて
樫田隊員（右）と
古関隊員（左）



フエ市
フー・ヒエップ地区の
水上生活者の様子



フー・ヒエップ地区の
水上生活者の船で
インタビューする
古関隊員

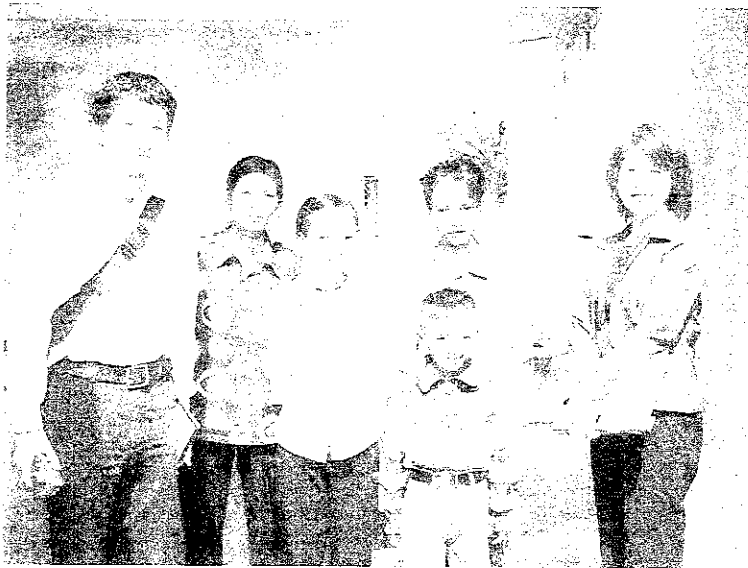


フー・ホア地区の
元水上生活者のスラム街



タインホア省ホアンホア県
農業・農村開発局にて

右から
結城団長
大崎隊員
佐竹隊員
藤崎調整員
三津間団員

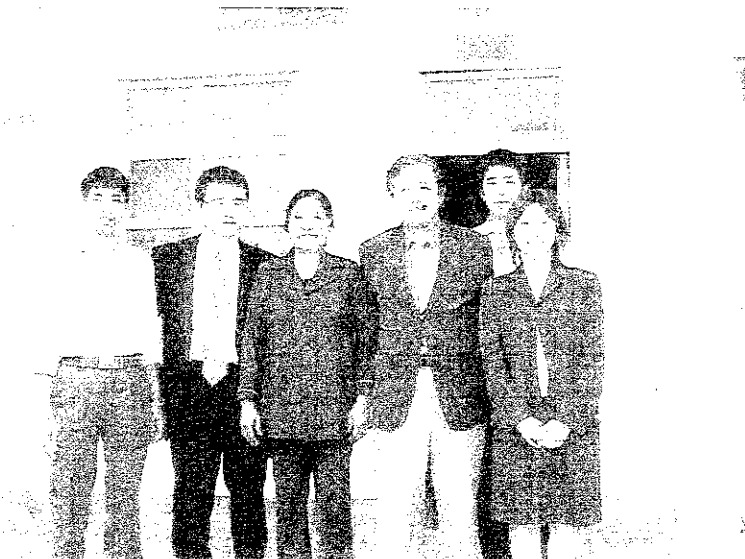


タインホア省ホアンホア県
ホアン・ビンコミュニティの
ブタ飼育農家にて

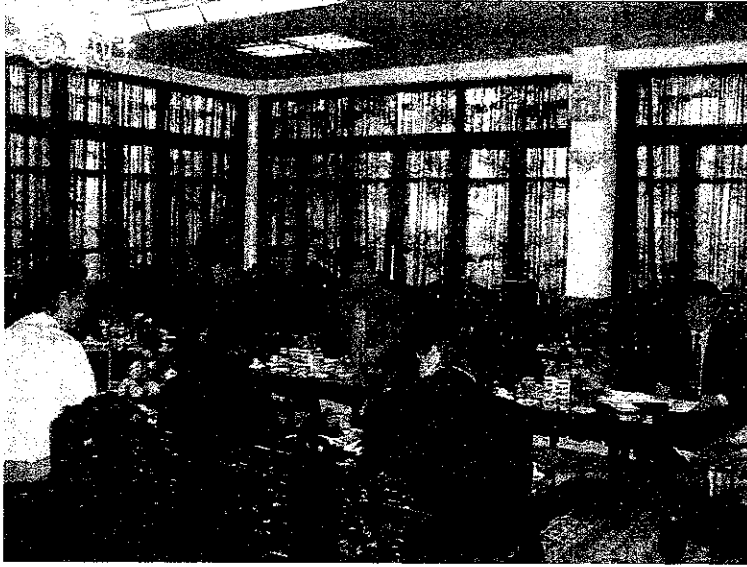
佐竹隊員（右）と
大崎隊員（左）



タインホア省ホアンホア県
ホアン・チュンコミュニティの
ヘルスポストにて
インタビューする竹林隊員
（左奥）



タインホア省ホアンホア県
赤十字協会にて



ホアビン省人民委員会での
協議風景



ホアビン省保健局にて
活動中の土橋隊員



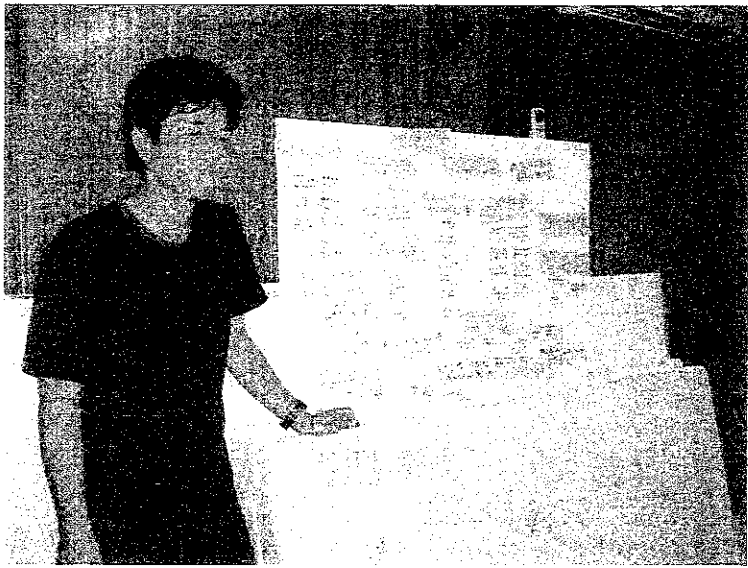
ホアビン省での
村落関連隊員分科会風景



ホアビン省ホアビン市

左手の川の上流にはホアビンダム湖がある。

右手はエビの養殖池



ホアビン省での
村落開発ワークショップ
風景



ホテルニッコーハノイで
行われた村落開発セミナー
の様子



ホテルニッコーハノイで
行われた村落開発セミナー
の様子



ベトナム事務所にて
村落開発ワークショップ
まとめの様子

第一章 調査概要

1-1 調査の目的

ベトナムでは、昨今、青年海外協力隊の職種拡大や地方への展開が着実に進んでおり、特に村落開発普及員及び現職教員特別参加制度対象職種並びに看護師・助産師隊員の要請開拓を積極的に実施している。

村落開発分野については、平成14年度春募集4件、平成14年度秋募集8件の要請が新規に提出され、現在、7名の隊員が派遣中、3名の隊員が訓練中である。

昨年11月、村落開発分野における現地受入体制の精査、同分野における対応可能な要請内容等の情報提供を行うことで、情報収集と受入窓口機関及び配属先関係者の理解促進に資すると共に、ベトナム事務所と協議し同分野への今後の隊員派遣計画策定に資することを目的に、要請背景調査団を派遣した。

同要請背景調査団派遣から約1年が経過しようとしているが、ベトナムでの村落開発分野での協力はまだ始まったばかりであり、現在も今後の協力の方向性について具体的な計画を策定するに至っていないことやベトナム側の村落開発普及員の役割に対する理解不足等の課題を抱えている。

このような背景のもと、本調査は、以下事項を目的として実施された。

- (1) 派遣中隊員の活動現場を訪問し、各隊員に対して今後の活動の方向性への助言を行う。
- (2) セミナー等を通じて、ベトナム側関係者の村落開発普及員の役割に対する理解促進に資する。
- (3) 同分野における今後の隊員派遣方針についてJICAベトナム事務所と協議を行い、派遣計画策定に資する。

1-2 調査団の構成

担当分野	氏名	所属
総括／事業運営	結城 史隆	JICA 青年海外協力隊事務局 技術顧問
派遣計画・業務調整	三津間 由佳	JICA 青年海外協力隊事務局海外第二課 職員

1-3 調査日程

日付	曜日	訪問先
11月6日	木	成田ーハノイ 到着後、事務所打合せ
11月7日	金	JICAベトナム事務所訪問、協議 バクザン省人民委員会農業・農村開発局、タンディン村人民委員会訪問
11月8日	土	資料整理
11月9日	日	ハノイーフエ フエ隊員3名と面談
11月10日	月	フエ市経済局、外務局訪問 フー・ハウ、フー・トゥアン、スワン・フー幼稚園訪問 フー・ヒエップ地区の水上生活者、フー・ホア地区のスラム街等訪問 フエーハノイ
11月11日	火	ハノイータインホア ホアンホア県農業・農村開発局、ホアンホア県赤十字協会訪問
11月12日	水	タインホアーホアビン ホアビン省人民委員会、ホアビン省保健局訪問
11月13日	木	ホアビンダム湖訪問、ヒエンルオンコミュニティ・ズン村フィールドワーク 村落開発ワークショップ開催
11月14日	金	ホアビンーハノイ 村落開発セミナー開催
11月15日	土	ワークショップ総括会
11月16日	日	資料整理
11月17日	月	JICAベトナム事務所訪問、調査結果報告、協議 ハノイ発
11月18日	火	成田着

1-4 主要面談者

Bac Giang Department of Agriculture and Rural Development:

Mr. Nguyen Van Tac, Vice Director

Mr. Damquoc Hung, Manager

Mr. Nguyen Van Thanh, Deputy Manager (*)

Mr. Dovan Phung, Expert

Bac Giang Provincial People' s Committee Office:

Mr. Nguyen Van Thanh, Expert

Boha Commune' s Communist Party

Mr. Nguyen Van Bay, General Secretary (*)

Boha Peoples' s Committee

Mr. Nguen Thanh Binh (*)

Dinh Ke Commune' s Communist Party

Mr. Tran Quoc Chanh, General Secretary

Dinh Ke People' s Committee

Mr. Luong Ngoc Thanh, Chairman

Dinh Ke Agricultural Cooperative

Mr. Luong Ngoc Bao, Chairman

Tan Dinh People' s Committee

Mr. Ngo Duc Phu, Chairman (*)

Tan Dinh Agricultural Cooperative

Mr. Nguyen Duc Phuong, Vice Chairman (*)

Hue Bureau of Foreign Affairs:

Mr. Nguyen Nhien, Director

Mr. Phan Van Hai, Consultant

Hue Bureau of Economics:

Mr. Phan Hong Khoi, Director

Mr. Nguyen Tan Phuoc, Staff

Hoang Hoa People' s Committee:

Mr. Nguyen Huu Hoan, Vice Chairman

Mr. Le Duc Tuan, Deputy Manager

Mr. Le Trong Hoa, Staff

Hoang Hoa Department of Agriculture

Mr. Le Khac Ngo, Manager

Mr. Trinh Thi Tho, Staff

Le Trong Hoa, staff

Hoang Vinh People' s Committee

Mr. Le Duc Tien, Chairman

Mr. Trinh Viet Lieu, Vice Chairman

Mr. Nguyen Hong Tuan, Officer

Red Cross – Hoang Hoa People’ s Committee:

Ms. Phan Thi Luong, Chairman

Mr. Pham Hung Manh, Staff

Hoa Binh People’ s Committee

Mr. Quach The Tan, Vice Chairman

Mr. Bui Ngoc Lam, Expert

Hoa Binh Department of Health:

Mr. Quach Dinh Thong, Director

JICA ベトナム事務所 :

菊地文夫所長

戸川正人次長

國本和彦ボランティア調整員

藤崎整雄ボランティア調整員

庄子てい子ボランティア調整員

※（*）は11月7日タンディン村人民委員会での協議参加者。

第二章 調査結果

2-1 共通調査事項

事務所のボランティア調整員及び協力隊員への聞き取り調査等の結果をまとめた。詳細は別添 1 に記載の通り。

2-2 バグザン省

バグザン省農村・農業開発局とタンディン村人民委員会を訪問し、関係者に対し日本の事例を紹介しながら村落開発普及員の活動を説明した。また、赴任予定 3 名の隊員候補生の紹介を行った。視察結果は別添 4 の通り。

その他、戸田隊員候補生の住居候補地 2 箇所を確認した。

2-3 フェ市

各隊員の配属先や活動場所を訪問し、聞き取り調査を行った。詳細は別添 2 の通り。

(1) 樫田 真隊員 (15 年度 1 次隊・村落開発普及員)

配属先のフェ市経済局を訪問するとともに、フー・ヒエップ地区の最貧困層の水上生活者の様子、フー・ヒエップ地区人民委員会の開催する識字教室、フー・ホア地区の元水上生活者のスラム街を視察した。

(2) 古関 陽子隊員 (15 年度 1 次隊・村落開発普及員)

樫田隊員に同じ。

(3) 藤田 めぐみ隊員 (15 年度 1 次隊・村落開発普及員)

配属先のフェ市外務局を訪問するとともに、同一の幼稚園で活動を行う須江隊員も同行し、これまでに活動を行ったフー・ハウ幼稚園、フー・トゥアン幼稚園、スワン・フー幼稚園を視察した。

2-4 タインホア省

各隊員の配属先や活動場所を訪問し、聞き取り調査を行った。詳細は別添 2 の通り。

(1) 竹林 正人隊員 (14 年度 3 次隊・村落開発普及員)

配属先のホアンホア県赤十字協会を訪問するとともに、ホアン・チュンコミューンのヘルスポストでの隊員の実際の活動を視察した。

(2) 佐竹 香里隊員 (14 年度 3 次隊・村落開発普及員)

配属先のホアンホア県農業・農村開発局を訪問するとともに、将来の活動候補コミューンであるホアン・ビンコミューン人民委員会にて村落開発普及員の活動に関する説明を行った後、同コミューンの 3 軒の農家（ブタ飼育農家、水

道を引いた農家、鶏飼育農家)を視察した。

- (3) 大崎 伸也隊員 (15 年度 1 次隊・村落開発普及員)
佐竹隊員に同じ。

2-5 ホアビン省

各隊員の配属先を訪問し、聞き取り調査を行った。詳細は別添 2 の通り。

このほか、ヒエンルオンコミューン・ズン村にて行われたフィールドワークに参加し、ムオン族の農家を訪問した。

- (1) 土橋 香子 (14 年度 2 次隊・村落開発普及員)

ホアビン省人民委員会にて村落開発普及員の活動に関する説明を行った後、配属先のホアビン省保健局を視察した。

- (2) 仲本 優子 (14 年度 3 次隊・保健師)
土橋隊員に同じ。

第三章 ワークショップ及びセミナー結果

3-1 村落開発分野ワークショップ

ホアビン省にて、JICA事務所員、専門家、協力隊員が参加しての村落開発ワークショップが行われた。あらかじめ協力隊員がKJ法によって整理した日常の活動上の問題意識を発表し、それに対して専門家や調査団がコメントする形をとった。概要は別添の通り。

その他、社会主義のため公安が外国人の行動に警戒しており、隊員は他国に比べ、行動の制約がある旨報告があった。公安とは連絡を取りにくく、実態を把握しづらいこと、公安の基準に地域差があるため明確な対応方針の作成が困難なことを確認した。調査団からは、協力隊員として留意すべき最低のラインについては赴任時等に指導するよう申し入れた。

3-2 村落開発普及員の活動にかかるセミナー

ハノイにて、ベトナム婦人連合、赤十字会、青年団等の大衆組織を対象にした村落開発セミナーが開催された。セミナーでは、議事次第に基づき、調査団より村落開発普及員についての説明後、隊員から活動紹介の発表を行った。

セミナー後のアンケートでは、各組織での協力隊員の活動の可能性についても記載してもらい、追ってフォローする形式をとった。概要及び資料は別添の通り。

第四章 考察

4-1 団長総括

(1) JOCV 隊員に対する配属先、勤務先の対応

一般的にどの隊員に対しても、生活面に関しては十分な配慮がなされているように思われる。人民委員会付属の個室やホームステイなどに隊員は住居を与えられているが、生活環境に関して大きな不満は聞かれなかった。(自動車騒音問題などでの移動を考えている隊員はいた。)

活動に関しては、ベトナム語の習得が早く積極的にベトナム側と接触しようとしている隊員には、勤務先も非常に協力的である。逆に言うと、意思疎通が上手にできない隊員やヴィジョンの不明確な隊員に対して、懇切丁寧に指導してくれる様子は見られない。隊員の中には早くコミュニケーションレベルの現場に行きたいと思っているものが少なくないが、言葉が不自由な隊員を村落レベルに送ることに関しては一般にどの職場も消極的である。

赴任して間もない隊員の中には自分の意思を明確に伝えられず、フラストレーションを感じている者もいるが、積極的に自分の経験、知識、希望などを同僚やカウンターパートに伝えることが重要と思われる。

また、赴任初期の段階で、要請内容と異なる活動を配属先において用意されていた場合もあったが、ベトナム社会と文化の基礎を理解するための措置と考え、隊員が状況を積極的に活用しているのは妥当な対応と思われる。

(2) ベトナム側組織

大多数の隊員の所属先は各地域の人民委員会となっており、当然のことながら、組織の一員としての活動が要請される。人民委員会の各部局は縦割りの機能と管轄があり、関係範囲に隊員の活動を限定する傾向がある。

また、省レベル、県レベルの部局は、下位組織を管理し、政策を立案し、計画を策定して実施させるという性格が強い。したがって、下部から情報を取得した後は、トップダウン方式が一般的で、現場ニーズ中心の発想は希薄である。さらに、建前と本音が乖離していたり、上位者の面子を大事にしたり、上司の前では発言をしないなどの慣習は十分に理解しておく必要がある。

JOCV 隊員のような高学歴で省や県の部局に所属しているものが、「草の根」レベルのコミュニケーションで活動することは、ベトナム社会の職場においては違和感を与えるかもしれない。しかしながら、多くの隊員は「参加型」活動を希望し、それが村落開発普及員としての動機となっている。

一部の隊員は職場の下級職員の声を引き出したり、住民のニーズ把握という手法を上司に理解させたり、また、部局から住民調査を期待されている場合も

ある。したがって、隊員個々人の意思疎通能力や実行力、人物性が高ければ、現場における村落開発普及活動を展開していく可能性は十分にあると思われる。

(3) ベトナム語、方言

ベトナム語の発音は日本人にとっては極めて難しい。二本松訓練所、ハノイの現地語学訓練と4ヶ月に渡り訓練を受けるが、任地着任当初は誰もが苦労していると言う。巡回指導において、ベトナム語の上達度が活動に大きな影響を与えていることは明らかであった。また、フエのような中部地方を筆頭に、方言の強い地域の隊員にどのように対応するのも課題である。

隊員の中には、現地語学訓練に関して不満やいくつかの要望が聞かれた。事務所においても、隊次ごとに個人学習、グループ学習、方言中心学習などさまざまな試みが行われている。訓練期間の延長を含めて、さらに状況にあった訓練システムの確立が重要であると思われる。

しかしながら、隊員の中には着任3ヶ月でベトナム語で調査ノートをとっている者もいる。そのノートをカウンターパートに見せ、添削してもらうことで、さらにベトナム語の上達を図るとともに、部局の職員に自分が何を調査しているかを開示し、理解と協力を得ることに成功している。

このように、外国語習得は本人の努力、熱意、能力に大きく依存しているものである。語学研修のシステム整備だけでなく、日本における訓練中から常にベトナム語の重要性を強調し、動機付けしておく必要がある。

(4) 公安などとの関係

ベトナムはドイモイ政策で開放化されたとはいえ、依然として社会主義国であり、外国人の活動には注意が必要である。職場に公安と思われる人がさりげなくチェックに來たり、住民に直接質問票を渡すときには公安のチェックを受けるようにアドバイスを受けている隊員もいる。

どのような活動が不穏当とされるのかは、地域やそのトップによって異なるので一般化はできないと言われている。無断で職場を離れたり、日本の友人を勝手に部屋に泊めたりするなど不信感を生むような行動をしないことだけでなく、地域の人々に安心感を与えるような生活態度を維持することが重要である。もし、問題になったような事例があれば、新任隊員には説明し理解してもらう必要がある。

(5) 隊員によるワークショップ

今回、ホアビン省において、村落開発普及員とその関係隊員が全員集まり、さらに専門家を交えてワークショップが開催された。各隊員が活動内容、問題

意識を開示するとともに、KJ法を用いて問題点を整理してまとめあげた。これは極めて有益な方法である。他の隊員との意見交換は刺激となるだけでなく、個々人の活動の展望に大きく寄与することと思われる。

ハノイにおいてもワークショップ全体の評価ミーティングが開催されたが、隊員間に信頼感ができたことは、今後の連携と協力の礎になることは確実である。今後も定期的な村落開発分野の分科会を開催することが望まれる。

(6) ベトナム側へのプレゼンテーションとセミナー

今回、バグザン省タンディン村、ティンホア省ホナンビン村、ホアビン省の各人民委員会において、パワーポイントを用いて、村落開発普及員活動に関するプレゼンテーションを行った。

日本の戦後の農村の映像フィルムを用いながら、日本の農村開発、生活改善がどのようになされてきたかを説明した。

日本とベトナムは稲作耕作を農業の中心においており、日本の50年前の様子はベトナムの20年前の状況とそっくりであると、いずれの地域でもコメントを受けた。そのうえで、さまざまな議論がなされ、村落開発普及員の活動がより鮮明に理解されたと思われる。

また、ハノイにおいては、赤十字協会、農林産物加工局、合作社、社会政策銀行をはじめ多くの団体代表を招聘して、村落開発普及活動に関するセミナーを開催した。参加者は非常に熱心に聴講し、多くの質問が提出された。農産物加工、手工芸、少数民族、家計管理、農薬使用などさまざまな分野での協力隊員の可能性について質問されるとともに、実現できれば協力を進めたいという積極的な反応を示す団体が多かった。

このようなセミナーは要請の拡大、多様化の面で、極めて有効であると思われる。

4-2 村落開発普及員の今後の展開に関する提言

(1) 隊員の配属先

村落開発普及員としての動機、知識、能力などから考慮すると、オフィスワークよりは、できるだけ住民と近い場で活動できることが望ましい。省の部局レベルが勤務先であると、コミュニケーションレベルにおける住民との接触が困難であったり、時間がかかることが多い。したがって、15年2次隊が派遣されたバグザン省のように、配属先は省の人民委員会農業開発局であっても、勤務先はコミュニケーションの人民委員会であるほうが、隊員は活動しやすいと思われる。

また、バグザン省では3人の隊員が、それぞれ特徴をもった別々のコミュニケーションを勤務先にしている。このように近隣の異なった村を担当しながら、互いに

情報を交換し、協力できるところは協力するのが望ましいと思われる。

(2) カウンターパート、アドバイザー

隊員の実務的、実働的な相談相手や同僚がいない場合がある。着任後、ベトナム語資料を渡されて、その分析と提言を促された隊員もいるが、現場や状況がわからなければ、単にオフィスに座っているだけになってしまうこともある。

職場の上司がカウンターパートと考えられていたり、カウンターパートの機能が不明確であったりするところが多い。明確に規定されていなくても、隊員を実質的にガイドやアドバイスをしてくれる人材のいるところとそうでないところでは、活動に大きな差ができています。

(3) 村落開発普及隊員相互の連携

同じ職場、特に同じ執務室に複数の隊員が配属された場合、人間関係の面で難しいことがしばしば起こる可能性がある。同じ地方、同じ省に配属になっても、勤務先はできるだけ異なるほうが、隊員個人としての活動は活性化するように見受けられた。ベトナムは治安の面では比較的安全なので、一職場一隊員のほうが活動しやすいと思われる。

そのうえで、村落開発普及関係の隊員による分科会などを定例化し、意見交換と連携がはかれるようになるほうが望ましい。

(4) 他職種隊員との連携

他職種隊員との連携は、属人的人間関係が大きく左右するので、安易な組み合わせには注意が必要である。しかし、ホアンホア赤十字協会関係における理学療法士、保健士やバグザン、タインホアにおける手工芸、農業系、市場開発系などとの連携の可能性は考えられる。

これらの点に関しては、現在活動中の村落開発普及隊員が調査して、適切な連携を提示できることが望ましい。

(5) 隊員の継続性

隊員には活動の「始め方」「進め方」「終わり方」「繋ぎ方」を常に意識するように指導している。ベトナムの村落開発普及員は現在のところ総て初代隊員である。彼らの後任が必要なのか、必要な場合は同一職場か他職場か、同一職種か他職種かなどについて考慮する必要がある。

村落開発普及の成果は時間がかかるものなので、一般的には3代くらいが継続することが望ましいが、個々の状況により判断すべきである。ただし、属人的な要素による判断は、極力排除しなければならない。

(6) シニア隊員

ベトナムにおける村落開発普及員は、15年3次隊が赴任すると、合計12名となる。したがって、これらの隊員の活動を促進し、充実させるために、シニア隊員の要請が将来的に考慮されるかもしれない。

村落開発普及活動に関する技術顧問の立場から言うと、特定地域を担当する調整作業を中心としたシニア隊員（現在南部に1名）よりも、村落開発普及員＋関連隊員（森林・農業隊員、保健師隊員、手工芸隊員、その他の中から数名）全体の中心となるシニア隊員が望まれる。

その場合、「チーム派遣」「グループ派遣」のような確固たるものにはせず、スリランカにおいて実施されているような「ゆるやかな連携」で結ばれた「JOCVユニット」のようなもののほうが、成功するであろう。

現在の各地で活動する村落初代隊員は優秀な人材が多いので、彼らの任期の終了を待って、その中から優秀なものをシニア隊員として選抜するのも一方である。彼らであれば、ベトナム語に堪能であるだけでなく、ベトナムの組織や村落に関する知識も十分にあるので、後輩たちに適切なアドバイスと指導を行っていけると思われる。

(7) 「大衆組織」への配属

いわゆる「大衆組織」としては、唯一ホアンホア県の赤十字協会が隊員が活動している。ここの活動は本人の努力もあって、極めて順調に進んでいる。また、ハノイのセミナーにおける各種団体からの反応もよかった。

今後は、人民委員会だけでなく、このような大衆組織を配属先に検討することは、活動の拡大と多様性という観点からも有意義である。拙速に対応する必要はないが、少しずつ配属可能なところと協議しつつ推進を図っていくことが望まれる。

(8) 最後に

前述したように、ベトナム語の難易度は高く、また、社会主義国特有の規制があるにもかかわらず、ベトナムにおける村落開発普及員の派遣は、今後ますます重要になってくると思われる。

ベトナムは他国と比べると治安がよく、生活環境もそれほど劣悪でない。食文化は日本と似ている面が少なくなく、一般の人々は親切である。隊員にとって生活面でのストレスは極めて少ない国である。また、隊員に対する期待が大きい分、隊員を育成してくれる国であるとも言える。

開発途上国で日本の若者に開発活動に従事させるとともに、異文化に対する

理解力のある強靱な若者の育成という協力隊のもうひとつの目的からも、今後ともベトナムへ村落開発普及員が継続的に派遣されることが望まれる。

別添資料

1. 共通調査事項
2. 隊員活動視察調書
3. セミナー用パワーポイント資料
4. 協議議事録（要旨）
5. JICA事業の概要
6. ベトナム国における青年海外協力隊事業概要

ベトナム村落開発分野青年海外協力隊巡回指導調査 共通調査事項 調査結果

1. 調査項目	2. 調査内容	3. 調査事項	4. 調査結果
1) 隊員の現地活動の実態把握	1-1) 隊員の職場での活動	1-1-1) 勤務時間・環境・業務内容	およそ7時～11時、13時30分～17時30分。村落隊員の多くは将来の活動に向けた資料の分析や聞き取りによる調査を実施している。ベトナム人スタッフについてもほぼ時間通りに勤務している。
		1-1-2) 言語・コミュニケーション	ベトナム語は特殊な発音のため習得が非常に難しく、言語の習得に苦労する隊員がほとんどであり、また地域によっては、これに方言という壁が加わる。現地語学訓練は、北部隊員はハノイ、南部隊員はホーチミンにて約1ヶ月間実施する。
		1-1-3) 技術レベルの適否	概ね要請内容に見合ったJOCVが派遣されているが、配属先によっては農業等の専門的な知識や経験の不足を指摘するところもある。赴任前に必要に応じて技術補完研修もしているが、ボランティア事業のため対応可能な部分から活動していくものであることを説明している。
		1-1-4) 配属先の受入体制・予算措置	ベトナムでは村落隊員の派遣がまだ始まったばかりであり、業務的には配属先、隊員ともに手探りの状況が続いている。しかしながら、予算面を除けば、隊員は配属先に温かく迎えられている。
		1-1-5) 要請背景調査の精度・問題点	当初の要請内容と、実際に期待される内容が必ずしも一致しない場合もあるが、柔軟に考えるよう隊員にも指導しており、現在のところ特に問題はない。
		1-1-6) 隊員の上京・事務所訪問の頻度	最も僻地で活動する隊員でもハノイやホーチミンまで5時間程度で上京できるため、業務出張や治安対策協議会などのイベント参加のためだけではなく、ストレス解消のために上京する隊員は少なくない。連絡所(Expert & JOCV room)は事務所に併設されているが、ドミトリーは無いため業務上京の場合は日当・宿泊料を支払っている。
		1-1-7) 隊員自身の満足度	言語習得や文化の違いに苦労している反面、多くの隊員はあたたかく受け入れられていることに満足している。
	1-2) 隊員の生活環境	1-2-1) 隊員住居の状態・住宅手当の妥当性	都市部に比べ地方での生活水準はまだ低く、特に衛生面や設備面で事務所の要求に十分に届く住居提供を配属先に求めることは容易ではない。隊員の生活や業務に支障が出る可能性がある場合には、ホームステイなどへの振り替えを行っている。住居としての適否は調整員が確認している。都市部と地方部の格差が大きいため、基準については検討中。
		1-2-2) 現地物価水準・派遣手当額の妥当性	都市部と地方での物価格差があり、都市部では現状の海外手当は妥当、物価の安い地方では若干の余裕があるが、上京旅費や地方ではまだ普及していない冷蔵庫などの物品購入費用も考慮すると、その金額は妥当であると言える。
		1-2-3) 余暇・職場外活動・精神衛生状態	業務終了後はバドミントンや卓球などを楽しむ隊員が多い。また週末は職場の同僚などの自宅に招かれることも少なくない。
		1-2-4) 交通事情・保健衛生	都市部、地方ともに交通状況は悪く、十分な注意が必要である。また衛生面においても、生水や食べ物に注意するなど、発熱や下痢への十分な配慮が必要である。交通事情についてはオリエンテーション期間の1週間のうちの半日を利用し、交通安全委員4名が学科・実習を担当している。現在、単車を使用している隊員はいないが、今後貸与が開始される予定である。バイクタクシーについては、業務上使用している隊員はいない。やむをえない場合は、申請書を提出の上利用を許可している。
		1-2-5) 治安・安全確保	ベトナムの治安状況は一般的に良いと言われているが、特に都市部においては、盗難などの軽犯罪が増える傾向にあり、十分な注意が必要である。治安上の留意点は、オリエンテーション時に安全管理担当所員から指導している。治安情報は大使館・マスメディア等から事務所で収集している。連絡所の使用は21:00まで、隊員にも22:00以降の外出は避けるよう指導している。

ベトナム村落開発分野青年海外協力隊巡回指導調査 共通調査事項 調査結果

1. 調査項目	2. 調査内容	3. 調査事項	4. 調査結果
2) 在外事務所（所員調整員）の事業実施体制の実態把握	2-1) 事務所内の業務体制	2-1-1) 業務分掌・配置人員の適正度	隊員44名、SV1名に対し、ボランティア調整員3名、ナショナルスタッフ1名、シニア隊員1名の計5名で担当している。國本調整員総括（SV担当、予算・派遣計画等担当）のもと、村落・教育分野を藤崎調整員、保健医療・スポーツ分野を庄子調整員、南部隊員のフォローを田島シニア隊員（プログラムオフィサー）で分担している。また、隊員の健康管理については、健康管理員が担当している。
		2-1-2) 事業予算額の過不足の有無	現地業務費を含め、現時点においては妥当であると思われるが、今後の地方隊員の増加により、支援経費は増えるものと予想している。
		2-1-3) 機材現地調達の実施状況	現地調達も可能であるが、隊員分についてはそれほど前例が無く、特に問題は無い。
	2-2) 所員／調整員の執務状況	2-2-1) 勤務時間・事務量・出張の頻度	勤務時間は8時30分～12時、13時30分～17時。調整員の平均残業時間は一日あたり5時間程度である。休日出勤も多い。
		2-2-2) 業務用機器の充足度	特に問題なし。
	2-3) 情報共有／連携体制	2-3-1) 事務合理化努力の実績	毎週月曜日の調整員会議、及び毎週金曜日の所内会議にて、常に情報共有が行われている。
		2-3-2) 地方巡回の頻度	要請背景調査、隊員赴任同行、活動中隊員の巡回などを目的とした出張を1人当たり、月1回、3日程度の出張を行っている。所員が出張する際にも隊員の活動を見るようにしている。
		2-3-3) 隊員総会・各種会議の開催状況	総会は6月、12月の年2回。健康診断を兼ねている。医療、村落分野の隊員は年に数回ほど分科会を開催している。
	3) 在外事務所（所員調整員）との意見交換	3-1) 隊員活動現況	3-1-1) 事務所による隊員モニタリング体制
3-2) 今後の協力重点課題と隊員派遣計画		3-2-1) 国別援助実施計画との整合性	JOCV派遣については、基本的に国別援助実施計画を反映している。
		3-2-2) 隊員派遣計画の修正・確認	前年度の派遣実績や新規要請の内容をふまえ、確認・修正したものを年度当初に送付している。
3-3) 新規要請開拓の実施方針		3-3-1) 要請背景調査の実態	継続案件については活動中隊員及び配属先へ前広に聞き取り調査を実施。新規案件開拓については、広報資料の送付や紹介による直接訪問聞き取りなどにより、反応の良かった配属先候補から、適切と判断される配属先候補を適宜訪問し、要請取り付けに結びつける。隊員派遣の前に、通常1～3回配属先に調査に行っている。
		3-3-2) 今後の開拓有望分野	地方への展開、より草の根に根ざした協力活動のための大衆組織やNGOとの連携、そして保健医療、農業・農村開発、教育などの事務所の重点分野プロジェクトの連携などを念頭に開拓を行う。
3-4) 治安対策、非常時対応		3-4-1) 現地で可能な通信連絡手段	固定電話、携帯電話（月\$15のプリペイドカードを渡している。超過分は自己負担。）、インターネット（ほぼ全員がアクセス可能。）
		3-4-2) 治安関連情報の収集体制	現地マスメディア、大使館、安管速報、及び犯罪被害報告書からの情報を適宜隊員に提供している。また、週一回の所内会議で、情報の共有をはかっている。
		3-4-3) 緊急事態への即応準備体制	緊急事態に備え、全隊員に携帯電話を貸与するなどして、緊急連絡網を整備している。また急な事故や病気などに対応するため、全隊員に生年月日や血液型の記載されたIDカードを配布している。ハノイとホーチミンには日本人医師のいる病院もある。傷病の状況により、バンコクや東京への移送体制も整っている。
		3-4-4) 最近の被害事例と対応策	重大犯罪や事故は起きていないものの、携帯電話や自転車の盗難などの軽犯罪被害にあった隊員に対しては、逐次指導及び注意喚起を行っている。
3-5) その他懸案事項		3-5-1) 事務所側の希望事項（あれば）	

ベトナム村落開発分野青年海外協力隊巡回指導調査 共通調査事項 調査結果

1. 調査項目	2. 調査内容	3. 調査事項	4. 調査結果
4) 受入国窓口機関、 隊員配属先との意 見交換	4-1) 協力隊事業に対する評	4-1-1) 隊員に対する配属先からの評価	村落開発系の隊員派遣後、まだあまり時間がたっていないため、隊員も配属先も手探りの状態が続いているが、隊員への期待は大きい。当初はハノイとホーチミンのみであったのが、地方展開・職種拡大につながったのは初期隊員たちへの評価が高かったことによるものと思われる。
		4-1-2) 協力隊事業の認知度・報道実績等	JICA事業や大使館との連携により、着実に認知度は増している。隊員への取材の機会も徐々に増えてきている。
	4-2) 今後要望／提言の聴取	4-2-1) 今後協力を求める分野の有無	武道を中心としたスポーツや保健医療系の要請が多い。
5) 一般調査事項	5-2) 交通安全対策関連	5-2-1) 現地の一般的な交通事情	都市部の路上にはここ数年で急増したバイクが溢れ、無秩序な運転が横行しており、危険な状況である。また地方部においては、特に国道では行きかうバスやトラックのスピード違反や無理な追い越しなどが目立ち、同様に危険な状態となっている。
		5-2-2) 車両貸与の実態・管理状況	自転車の貸与を受ける隊員がほとんどである。また村落開発隊員が増えたこともあり、間もなく、レンタルによるバイクの貸与が開始される予定となっている。メンテナンスはレンタル会社が行う。バイク貸与は、日本で免許を取得、二本松訓練所にて訓練を受け、ハノイの交通安全教育センターの学科・実技教習を経てベトナムの免許を取得した者に貸与する。
		5-2-3) 交通安全委員会の活動状況	昨年から本格的な委員会活動が始まっており、4名の委員、10名の地方担当（総会時に話し合いにより決定）を中心に活動を行っており、その活動は、先日の交通安全調査団訪越時にも高い評価を受けた。
	5-3) 政治、経済、社会情勢	5-3-1) 国会会期・政権抗争の現状等	政治的には安定している。
		5-3-2) 物価上昇率・景気関連情報等	為替レートは1米ドル=15、500ドン前後で安定しており、急激な物価の変動は無い。
		5-3-3) デモ・ストライキ情報等	特になし。
		5-3-4) 現地の一般的な住宅事情	地方と都市では大きな較差があり、地方の住宅事情はまだまだ悪い。特に衛生面や設備面での未整備が目立つ。配属先が住居提供するのは全体の8割程度。住居費の限度額は\$360。

1. 事前記入事項

氏名	樫田 真	職種名	村落開発普及員	隊次	15年度1次隊	身分措置	無
配属先	フエ市人民委員会フエ市経済局			派遣期間	03.7.15-05.7.14		
1. 当初要請内容	※情報源：受入希望調査表 配属先は人民委員会の家庭内手工芸・観光業・農業・住民に対する職業訓練業務等に関わる行政コンサルタント・マネジメント機能強化を行っている。年間予算は約13,000USD。隊員に求められているのは河川水上生活者の生活改善に向けての以下活動。1. 住民のニーズ調査・分析 2. 上記に基づく政策への提言、製作の実施計画の作成 3. 大衆組織との効果的な連携方法の検討 4. 子女教育・家政・環境保護・公衆衛生に関する新しい知識の普及 5. 就職活動に向けたガイダンス等の企画・実施 等。						
2. これまでの活動状況	※情報源：隊員活動報告書						
3. 過去に直面した問題点等	※生活面の問題点も含む 前住居は安全性の面で問題があったため、現在はホテル住まいで新住居を探している。						

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月10日 (月)

1. 調整員からの最新情報	フエ市のフォン川に暮らす7500名の船上生活者は最大の貧困層であり、同隊員は市経済局と共に彼らの生活改善に向けたニーズや課題の調査・分析、市への提言などを行う。赴任から2ヶ月が経ち、巡回調査を行うなど、活動は順調滑り出している。
2. 最新活動状況	フエ市の水上生活者の定住化政策に関する資料の翻訳、読み込みを行うとともに、古閑隊員とともに毎週、要請書・履歴書・2年間の活動計画書持参で水上生活者の各生活区の人民委員会を挨拶回りし、担当者の案内により水上生活者の生活を調査している。水上生活者が定住化する際の差別問題、家庭内のバランスの崩壊の可能性についても問題意識を持っている。
3. 隊員からの要望・提言	隊員報告書はデータベース化し、キーワードをもとに自由に検索できるようにしてはどうか。
4. 調査団からの助言・回答	3. の提言については、現在協力隊事務局にて隊員報告書タスクが検討中である旨伝えた。水上生活者を調査する際、調査票などではなく、何気ない会話やしぐさなど、インフォーマルな形でのコミュニケーションから読み取れることもあるため、工夫するとよい。また、初代隊員として、今後の継続的な協力を見据え、デジカメで現在の情報を資料として記録しておくことが重要である旨助言した。

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	二本松は講師がよかった。現地訓練は二本松の復習のような感じであった。フエではハノイ語が通じるが、人々が話しているのはフエ弁。水上生活者の言語は昔のフエ弁言われておりさらに理解が難しいが、人民委員会の同行者が間に入ってくれることもあり、特に不自由はしていない。
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調書

1. 事前記入事項

氏名	古閑 陽子	職種名	村落開発普及員	隊次	15年度1次隊	身分措置	無
配属先	フエ市人民委員会フエ市経済局			派遣期間	03.7.15-05.7.14		
1. 当初要請内容	※情報源：受入希望調査表 配属先は人民委員会の家庭内手工芸・観光業・農業・住民に対する職業訓練業務等に関わる行政コンサルタント・マネジメント機能強化を行っている。年間予算は約13,000USD。隊員に求められているのは河川水上生活者の生活改善に向けての以下活動。1. 住民のニーズ調査・分析 2. 上記に基づく政策への提言、製作の実施計画の作成 3. 大衆組織との効果的な連携方法の検討 4. 子女教育・家政・環境保護・公衆衛生に関する新しい知識の普及 6. 就職活動に向けたガイダンス等の企画・実施 等。						
2. これまでの活動状況	※情報源：隊員活動報告書						
3. 過去に直面した問題点等	※生活面の問題点も含む						

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月10日 (月)

1. 調整員からの最新情報	フエ市のフォン川に暮らす7千名の船上生活者は最大の貧困層であり、同隊員は市経済局と共に彼らの生活改善に向けたニーズや課題の調査・分析、市への提言などを行う。赴任から1ヶ月半が経ち、巡回調査を行うなど、活動は順調滑り出している。活動には熱心で意欲がある為、配属先の評価も高い。
2. 最新活動状況	フエ市の水上生活者の定住化政策に関する資料を配属先から受け取り、改善を要請されている。C/Pはフエ省の水上生活者定住化政策担当者が、フエ市経済局に出向している形。隊員は、主に以下活動を行っている。 1. 毎週、要請書・履歴書・2年間の活動計画書持参で水上生活者の各生活区の人民委員会を挨拶回りし、担当者の案内により水上生活者の生活を調査する。調査結果はフィールドノートにベトナム語で記録し、C/Pにチェックしてもらう。調査結果を反映した地図の作成も行っている。 2. 水上生活者用に準備された定住区の現状調査を行う。 3. 週3回程度、最貧困地区で人民委員会が実施している識字教室の補助を行う。(水上生活者の生活調査も兼ねる。) その他、J B I Cのフォン川上流のダム建設プランについて、少数民族の移住問題や水上生活者の生計への影響に注目している。
3. 隊員の要望・提言	
4. 調査団からの助言・回答	調査結果は日本語でも作成し、写真資料とともにまとめておくとよいと助言した。

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合のみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	現地語学訓練の教材は改善の余地があると思う。フエ弁の勉強を早くからできればよかった。
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	トップダウン体質は、経済局や人民委員会を利用すれば逆に動きやすいということにもなる。外国人ゆえの活動のしづらさは感じていない。
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	大家に隣接した二階の一室にホームステイ中。大家宅で食事を取る際は、一食3000ドンを支払っている。
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調査書

1. 事前記入事項

氏名	藤田 めぐみ	職種名	村落開発普及員	隊次	15年度1次隊	身分措置	無
配属先	フエ市人民委員会フエ市外務局			派遣期間	03. 7. 15-05. 7. 14		
1. 当初要請内容	※情報源：受入希望調査表 配属先は人民委員会の経済・社会問題・文化・教育に関わる行政コンサルタント・マネジメント機能強化を行うほか、フエ市の政策目標達成に向けた国際機関との連携等を行っている。年間予算は約30,000USD。隊員に求められているのは以下活動。1. 社会問題の予防に係る広報・啓蒙活動等の計画・実施2. 女性の社会的役割について地域住民の自覚を促すための社会活動への参加促進3. 婦人連盟・青年団・貧困層支援団体等との連携強化、効率的な協力体制への提案4. 2003年の日越国交回復30周年記念行事でのイベント企画 等。						
2. これまでの活動状況	※情報源：隊員活動報告書						
3. 過去に直面した問題点等	※生活面の問題点も含む 住居に温水シャワーが無いため、配属先に改善を申し入れている。また、工事作業員が壁を伝って登ってくるなど、安全面の心配がある。配属先からは、すぐにでも対応するとの回答であった。						

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月10日 (月)

1. 調整員からの最新情報	フエ市でも深刻化するエイズや麻薬などの社会問題の予防に係る広報や啓発活動を行政と共に行うことを望まれているが、現在は、同期の須江隊員 (家政) と共に、日本の援助で建設された幼稚園を巡回訪問しており、来年にはより得意分野の保健衛生に特化した巡回指導を行う予定である。
2. 最新活動状況	配属後の9月より、ベトナムの習慣の体得、ベトナム語習得を目的とし、フー・ハウ幼稚園、フー・トゥアン幼稚園、スワン・フー幼稚園の3箇所 (いずれも水上生活者や生活保護者等、貧困層の子どもが通う園。) を1ヶ月ごとに巡回し、ベトナム人幼稚園教諭とともに園児たちの面倒を見るほか、父兄を対象にした健康教育・衛生教育を行っている。その他、フエ婦人連合と協同した日本食文化の紹介、日越交流センターでの外交30周年記念行事の補助も行った。
3. 隊員からの要望	
4. 調査団からの助言	配属先は、まずはベトナム語の勉強とベトナムの生活に慣れるよう、傘下の幼稚園を活動の場として用意したものであると思われる。前向きに考え、まずは現在の活動内容でやれることから始め、幼稚園での活動を切り口に来年以降の活動を検討していくよう助言した。

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	現地訓練は二本松の復習のようであった。もっと上レベルの勉強、フエ弁の勉強がしかなかった。1ヶ月という期間は良いと思う。
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	現在の活動は当初の要請内容とは異なるが、隊員自身は前向きに活動している。
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調査書

1. 事前記入事項

氏名	竹林 正人	職種名	村落開発普及員	隊次	14年度3次隊	身分措置	無
配属先	タインホア省人民委員会ホアンホア県赤十字協会		派遣期間	03. 4. 9-05. 4. 8			
1. 当初要請内容	※情報源：受入希望調査表 配属先はプライマリヘルスケアに関する住民指導、社会的弱者に対するボランティア活動の指導・管理、災害防止のための宣伝・訓練等を行う、全国規模の草の根ネットワークを持つ大衆組織。年間予算は約20,000USD。隊員に求められているのは以下活動。1. 住民の生活調査や配属先の業務の現状把握を通じた、今後の隊員派遣のニーズ分析2. 配属先と大衆組織（青年団・婦人連合等）との連携のあり方の検討						
2. これまでの活動状況	※情報源：隊員活動報告書 以下は2003年8月時点の現状。 ・アドバイザーという立場で活動中。 ・言語を含めた、コミュニケーションには困難を感じており、プレゼン方法を工夫している。 ・彼らの日常の業務をサポートする形で組織強化（プロセスの強化）をしたいが、スタッフはプロジェクト立ち上げを期待している。 ・大規模組織の下部ということで、上から降りてくる仕事が多い。						
3. 過去に直面した問題点	※生活面の問題点も含む 前住居が騒音等の問題があったため、現在はゲストハウスに移って新住居を探している。						

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月11日 (火)

1. 調整員からの最新情報	本年度5月に省の赤十字協会に赴任となった。協会の幅広い業務や組織強化などへのアドバイスを求められている。ホーチミン市滞在2年間の経験を生かし、赴任早々から精力的に村落を飛び回り、様々な困難にも挫けることなく、ワークショップなどを行いながら、障害者支援の方向性を探っている。
2. 最新活動状況	配属先の業務のうち、学校におけるプライマリヘルスケア、枯葉剤の影響を受けた障害者のケアのための調査を中心に活動している。後者については県に48箇所あるコミュニティのうち、3コミュニティにて、ヘルスポストでのニーズ調査等を実施している。活動の対象は県職員なのか、コミュニティの村人なのかについて考えている。また、事業実施のための資金調達の方法について、他ドナーへの申請の方法を配属先と共に検討し、アドバイスしている。また、村落開発普及員分科会のリーダーも勤める。
3. 隊員の要望・提言	1. 障害者にインタビューしてみると、日常的にリハビリを受けたいというニーズがあることがわかった。ベトナムリハビリ協会がCBRプロジェクトを実施し、ボランティアのトレーニングを行っているため、そのトレーニングを受けられないかと考えている。一度、理学療法士隊員に現状を見てもらい、相談してみたい。 2. 隊員の配属先としては、県レベルの組織に籍を置きつつ、村レベルに活動のために出て行ける形が理想的と考える。省レベルでは、管理業務が中心でなかなか現場が見えない。
4. 調査団からの助言・回	語学も堪能であり、活動も現在のところ順調である。CBRについては、本部にも技術顧問がいるので、適宜相談するのも一案と助言した。

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	以前ベトナムに留学していた経験があり、問題はない。
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	

1. 事前記入事項

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調査書

氏名	佐竹 香里	職種名	村落開発普及員	隊次	14年度3次隊	身分措置	無
配属先	タインホア省人民委員会ホアンホア県農村開発局		派遣期間	03.4.9-05.4.8			
1. 当初要請内容		※情報源：受入希望調査表					
配属先は農業・漁業・林業・畜産業・灌漑等に関する事業を担当し、技術の普及を行っている。年間予算は約20,000USD。隊員に求められているのは以下活動。1. 農民の生活と配属先の事業の現状調査を通じた今後の隊員派遣のニーズ分析2. 1.に基づく農協・漁協・手工芸品協会の機能強化とモデル農家の選定3. 婦人連合・青年団等との連携のあり方の検討4. 同県農民の所得増加に向けた活動の検討							
2. これまでの活動状況		※情報源：隊員活動報告書					
以下は2003年8月時点での現状。 ・アドバイザーとして活動中。 ・ベトナム語に関しては、専門用語が辞書にないなど、苦勞しているが、日常会話は問題ない。 ・社会組織局にて、コミュニンの貧困の統計や、雇用機会を与える業務の資料を読み込んでいる。 ・畜産・漁業・新農村モデルプロジェクトの資料を読み込んでいる。 ・他職員の活動内容を掴む為、アンケート（担当している業務、連携のある組織等）を実施し、普段あまり交流のないスタッフからも丁寧な回答を得た。							
3. 過去に直面した問題点		※生活面の問題点も含む					
コミュニンの現場へ行くのはまだ早いといわれ、なかなか思うようには調査に行かせてもらえなかった。							

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月11日 (火)

1. 調整員からの最新情報	
農協などの組織強化や他大衆組織との連携を通じた県の農産業の振興へのアドバイスが求められている。配属から半年が過ぎ、配属先と対象コミュニンの選定を働きかけるなど、同僚の大崎隊員と共に積極的に活動している。	
2. 最新活動状況	
資料の読み込みを続けるほか、人民委員会を通してこれまで10箇所程度のコミュニンに入り、現状調査を行っている。なかなかコミュニンに行く機会を得られなかったため、職場に提案書を提出したところ、最近1ヶ月で4、5箇所を回れるようになった。2回目以降は単独で訪問する許可を得ているため、今後バイク貸与が開始すれば、行動範囲も広がる見込みである。 今後は、なるべくコミュニンに入って調査を行い、まず彼らのニーズを確かめたいと考えている。その後の希望として、1. マイクロファイナンス2. ごみ分別・処理指導3. 売れ筋の手工芸製品の作成の活動を考えている。大崎隊員とともに、地元の青年団に加入した。	
3. 隊員の要望・提言	
配属先は管理業務が多く、農民との接点は少ないが、農村には農業改善が必要との認識である。活動に同行してもらい副局長は不在がちなため、実務レベルのキーパーソンが必要か。一方、婦人連合、青年団等の大衆組織は農民との接点があり、農村には生活改善が必要との認識である。大衆組織からはさまざまな情報も得られるため、今後は局に籍を起きつつも、うまく大衆組織とも連携しつつ調査を進めたい。	
4. 調査団からの助言・回	
村落開発普及員は、農業改善よりも生活改善に重点を置くとの認識である。ベトナム特有の体制を踏まえ、配属先との信頼関係構築に努めつつできることから活動を進めていくよう助言した。	

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	専門用語の辞書がないなど、苦勞しているが日常会話には問題はない。二本松での語学の授業は、現地語で行われるとさらに効果が上がると思う。現地語学訓練は、ホームステイが効果的ではないかと思う。また、任地の言葉に慣れるために、早めに任地に入れてしまうのも一案ではないか。
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	来月からバイク貸与予定。
5) 治安・安全確保	

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調査書

1. 事前記入事項

氏名	大崎 伸也	職種名	村落開発普及員	隊次	15年度1次隊	身分措置	現職参加
配属先	タインホア省人民委員会ホアンホア県農業・農村開発局			派遣期間	03.7.15-05.7.14		
1. 当初要請内容	※情報源：受入希望調査表 配属先は農業・漁業・林業・畜産業・灌漑等に関する事業を担当し、技術の普及を行っている。年間予算は約20,001USD。隊員に求められているのは、1. 今後の隊員派遣に向けたニーズ分析 2. 農協・漁協・手工芸品協会の機能強化とモデル農家の選定 3. 婦人連合・青年団との連携方法の検討 等。						
2. これまでの活動状況	※情報源：隊員活動報告書						
3. 過去に直面した問題点	※生活面の問題点も含む						

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月11日 (火)

1. 調整員からの最新情報	農協などの組織強化や他大衆組織との連携を通じた県の農産物の振興へのアドバイスが求められている。同隊員は市役所で住民と一体となった町の再活性化を行った経験もあり、職場からの期待も大きい。すでに同職場に赴任している佐竹隊員と協力し、今後の活動を模索している。
2. 最新活動状況	農業・農村開発局の業務内容を理解すること、関係機関・団体等との関係づくり、ホアンホア県に暮らす地域の人々の生活を知ることが活動の中心としている。具体的には、「新モデル農村開発プロジェクト」資料の読み込み、農業局スタッフの現場調査への同行等を行っている。日本での所属先の市の開発例を簡単に訳したところ、副局長が調査への理解を示し、実施に対しても前向きな反応であった。日常的に共に活動する職員は決まっていない。
3. 隊員の要望・提言	
4. 調査団からの助言・回答	調査結果は配属先に示すなど、社会主義国であるベトナムの特徴に留意して活動すること、また各地区の人民委員会担当官と親しくなると、調査をやりやすくなる可能性がある旨助言した。

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調査書

1. 事前記入事項

氏名	土橋 香子	職種名	村落開発普及員	隊次	14年度2次隊	身分措置	無
配属先	ホアビン省人民委員会ホアビン省保健局			派遣期間	02.12.4-04.12.3		
1. 当初要請内容	※情報源：受入希望調査表 配属先は、保健衛生に関する政策の立案・指導・管理を行っている。管轄下の機関は省立総合病院・伝統医療センター・予防医療センター等。隊員に求められているのは以下活動。 1. 配属先の管理・指導対象となる期間・地域の調査を通じた、今度の隊員派遣のニーズ分析 2. 省傘下の行政機関及び大衆組織との効果的連携のあり方の検討						
2. これまでの活動状況	※情報源：隊員活動報告書 隊員の2003年8月時点の状況は以下の通り。 ・コミュニケーション（特に言語）は困難。 ・生活に慣れることに時間がかかった。対人関係には問題を抱えている。外国人が稀な地方で、ベトナム人たちの視線を怖く感じることもある。 ・省保健局職員として、同局の政策を調べる、保健局の人の仕事内容を知ることが活動の中心。						
3. 過去に直面した問題点等	※生活面の問題点も含む 省保健局の中で、自分に何ができるのかわからなかった。また、現在もなかなか現場に出て行けない現状がある。						

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月12日（水）

1. 調整員からの最新情報	JICAが進める北部医療強化事業のモデル省の保健局へ、ベトナム初の村落開発普及員として派遣された。派遣から約1年を過ぎ、保健局の村落部への巡回調査への同行するなどして、活動の方向性を定めるべく模索を続けている。
2. 最新活動状況	保健局医療業務部に所属している、UNFPA職員と協同し、村落ヘルスワーカーについてアンケートを実施し、ベトナム語から日本語に訳す作業を行っている。保健局の業務は下部組織の管理が中心であり、なかなか現場に出て行けない現状がある。今後は、JICAのジュニア専門員の活動しているコミュニティに入り、医療ニーズ調査を実施することを考えている。ただしその場合、コミュニティへの交通手段が課題となる。
3. 隊員からの要望・提言	
4. 調査団からの助言・回答	ジュニア専門員、青年団、コミュニティ人民委員会等と協同してやれるところから始めるなど、配属先とよく相談してみてもどうか。また、赴任して1年が経過したので、そろそろ自己の活動の終わり方、次へのつなげ方を考えてほしい旨伝えた。
5. 特記事項	2004年より開始される、省病院のレベル向上を目標とする北部医療プロジェクトのPCMワークショップが9月に開かれ、隊員も参加した。その中で、省病院、郡病院に協力隊員が必要との結果が出ている。なお、他ドナーとのデマケについては、郡病院がUNFPA、コミュニティヘルスポストがADBとされている。

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	

JOCV巡回指導調査団 隊員活動視察調査書

1. 事前記入事項

氏名	仲本 優子	職種名	保健師	隊次	14年度3次隊	身分措置	無
配属先	ホアビン省人民委員会ホアビン省保健局			派遣期間	03. 4. 9-05. 4. 8		
1. 当初要請内容		※情報源：受入希望調査表					
配属先は、保健衛生に関する政策の立案・指導・管理を行っている。管轄下の機関は省立総合病院・伝統医療センター・予防医療センター等。保健局の現行業務の改善に協力し、住民の生活・行動形態に合った体制の構築が期待されている。							
2. これまでの活動状況		※情報源：隊員活動報告書					
<p>以下は2003年8月時点での現状。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村へ行くのは、保健局職員の業務についていく時のみで、普段は保健局内に居ることが多く、現場に出る機会がほとんどない。村での人々の生活が見えない。 ・現在、村は生活するにも精一杯の状況で、村の問題は多岐にわたる。健康問題のみを切り取っての提案には無理が生じる。 ・「貧しい」がログセの職員たちにどう具体的なアクションを起こさせるかを思案中。 ・日本での自分の職場イメージをベトナムにあてはめ、決め付ける傾向があったが、実際は全く違う業務であることもある。改めて確認することの必要性を感じた。 							
3. 過去に直面した問題点等		※生活面の問題点も含む					
配属先の保健局に明確な目標が無いことに疑問を感じている。 現場のコミュニケーションに出る機会が少ないことに歯がゆさを感じている。							

2. 現地記入事項 (1) 視察日：2003年11月12日 (水)

1. 調整員からの最新情報	
JICAが進める北部医療強化事業のモデル省の保健局への派遣で、疾病予防にかかる保健衛生教育システムの検討や各医療機関や大衆組織との連携による村落地域への啓蒙プログラムの作成が求められている。沖縄の離島での看護師経験が豊富で、明るい性格も有って職場にもすんなりと溶け込んでいる。今後の活動については、村落部での活動を視野に入れて模索中である。	
2. 最新活動状況	
村などの現場へ行く機会は少なく、保健局の問題点の分析、局内にて統計資料を読むなどの活動が中心となっている。9月には、北部医療プロジェクトのPCMワークショップに参加した。	
3. 隊員の要望・提言	
コミュニケーションの現場に出て母子保健指導を中心に活動したいと考えているが、保健局は管理業務だけの機関であるため、下部組織（予防センター、母子保健センター等）に活動の拠点を移したいと考え、直属の上司に相談しているところである。	
4. 調査団からの助言・回答	
実施したい活動を配属先と相談し、やれることから少しずつ始めることが糸口となる。語学力と知識・経験を積ませてから現場に出すというのがベトナムの特徴との印象を受けるため、しばらく局内で様子をみながら、チャンスをつかむ方法もある旨伝えた。	

3. 現地記入事項 (2) ※下記項目につき特記事項がある場合にのみ記入

1. 隊員の職場での活動	
1) 勤務時間・環境・業務内容	
2) 言語・コミュニケーション	二本松の語学訓練は、講師と合わずうまく成果が上がらなかった。現地語学訓練は有用であった。日常会話には困らないが業務上はまだ困難がある。
3) 技術レベルの適否	
4) 配属先の受入体制・予算措置	
5) 要請背景調査の精度・問題点	
6) 隊員の上京・事務所訪問頻度	
7) 隊員自身の満足度	
2. 隊員の生活環境	
1) 住居状態・住宅手当の妥当性	
2) 物価水準・派遣手当の妥当性	
3) 余暇活動・精神衛生状態	
4) 交通安全・保健衛生	
5) 治安・安全確保	